28　　好き者のはやとちり　　連用形接続の助動詞まとめ

今は昔、土佐判官代通清といふ者ありけり。歌を詠み、源氏・狭衣などをうかべ、花の下、月の前と好きありきけり。かかる好き者アなれば、後徳大寺左大臣、Ａ「大内の花見んずるに、必ず」と誘はれければ、通清、Ｂ「めでたき事にあひたり」と思ひて、やがて破車に乗りてゆくほどに、あとより車二三ばかりして人の来れば、Ｃ「疑ひなきこの左大臣のおはする」と思ひて、後の簾をかきあげて、Ｄ「あなうたて、あなうたて。とくとくおはせ」と、扇を開きて招きけり。はやう関白殿のものへおはしますなりけり。招くを見て、御供の随身、馬を走らイせてかけ寄せて、車の後の簾を刈り落としウてけり。その時、通清慌て騒ぎて、前より転び落ちけるほどに、烏帽子落ちにけり。いといと不便なりけりとか。好きぬる者は少しをこにもありけるにや。

【本文チェック】

①□ア～ウの助動詞の、文法的意味・文中での活用形を書きなさい。

　ア（　　　　　・　　　　　形）　　イ（　　　　　・　　　　　形）

　ウ（　　　　　・　　　　　形）

②せりふ・心中語のＡ～Ｄは誰の発言・考えかを、次から選んで書きなさい。

　【通清・左大臣・関白・随身】

　Ａ（　　　　　）　　Ｂ（　　　　　）

　Ｃ（　　　　　）　　Ｄ（　　　　　）

③傍線部を、後に略された語を補って現代語訳し、書きなさい。

　（　　　　　　　　　　　　　　　　　）

【語彙力 ✚】

問１　次の語句の読みを、現代仮名遣いで答えよ。

１　判官代〔１〕（　　　　　　　　　）

２　破車〔３〕（　　　　　　　　）

３　随身〔６〕（　　　　　　）

４　烏帽子〔７～８〕（　　　　　　）

問２　次の語句の意味について、空欄を埋めよ。

１　好き者〔２〕　　①好色な人物

　　　　　　　　　　②（　　　　　　　　　　　）

２　不便なり〔８〕　①（　　　　　　　　　　　）

　　　　　　　　　　②気の毒だ

問３　次の傍線部の意味として最も適当なものを選べ。

１　上人たまたまこの寺におはすなり。（源平盛衰記）

　ア　修行なさる　　　イ　お供えになる

　ウ　いらっしゃる　　エ　葬られる

２　むかし、のと申すみこおはしましけり。（伊勢物語）

　ア　いらっしゃる　　イ　住んでいる

　ウ　評判になる　　　エ　尊ばれる

３　、この馬より落ちて冠したるをば、をこなりとや思ひ給ふ。

（宇治拾遺物語）

　ア　怒るべきことだ　　　イ　間抜けだ

　ウ　もっともなことだ　　エ　間が悪い

　（　　　）

【文法力 ✚】

問４　次の中から、連用形接続の助動詞をすべて選べ。

ごとし　　めり　　たり（完了）　　たり（断定）　　り　　まし

まほし　　らむ　　けむ　　　　　　たし　　　　　　す　　き

けり　　　む　　　つ　　　　　　　ぬ

（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

問５　次の（　）内の助動詞を正しく活用させて答えよ。

１　京より下り①（き）時に、みな人、子どもなかり②（き）。（土佐日記）

　①（　　　　　）　②（　　　　　）

２　いとよう書いたまひ（つ）む。（源氏物語）

（　　　　　）

３　花の色はうつり（ぬ）けりな（古今和歌集）

（　　　　　）

４　世の中に絶えて桜のなかり（き）ば春の心はのどけからまし（伊勢物語）

（　　　　　）

【探究】

問６　説話『宇治拾遺物語』では、「好き者」である通清がはやとちりをして醜態をさらしてしまったというエピソードを紹介し、「風流な者は少し間が抜けたところがあるのかもしれない」とまとめている。あなたはこの考えについてどう思うか。

ア　賛成である。

イ　反対である。

ウ　どちらでもない。

（理由　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

【解答】

【本文チェック】

①　ア＝断定・已然　イ＝使役・連用　ウ＝完了・連用

②　Ａ＝左大臣　Ｂ＝通清　Ｃ＝通清　Ｄ＝通清

③　間抜けでもあったのだろうか

問１　１＝ほうがんだい　２＝やれぐるま　３＝ずいじん　４＝えぼし

問２　１＝風流人　２＝不都合だ

問３　１＝ウ　２＝ア　３＝イ

問４　たり（完了）・けむ・たし・き・けり・つ・ぬ

問５　１　①＝し　②＝き　２＝て　３＝に　４＝せ

問６　（例）ア　風流人は、今でいう趣味人で、自分の好きなものにこだわるあまり、それが度を越すと周りが見えなくなることがありそうだから。

　　観点　「好き者（風流人）」は現代の芸術至上主義や「オタク」と通じるところがあるかもしれない、などと考えてみるのも面白いだろう。

【現代語訳】

問３　１　上人が偶然この寺にいらっしゃるそうだ。

　　　２　昔、のと申し上げる親王がいらっしゃった。

　　　３　皆様方、（私が）この馬から落ちて冠を落としたのを、間抜けだと思いなさるか。

問５　１　京から下ったときには、みんな、子どもがいなかった。

　　　２　きっとたいへん上手にお書きになるだろう。

　　　３　花の色はおとろえてしまったことよ。

　　　４　もしこの世の中にまったく桜がなかったなら、春の（人々の）心はのどかだろうに。